

令和6年度 部報



鹿児島大学陸上競技部 HP

<https://kadai-athletics.jp/>

目次

○OBG会 挨拶

○監督 挨拶

○幹部 挨拶

○令和5年度陸上競技部 OBG会 決算報告

○主な大会成績

○令和6年度 部員名簿

○編集後記

一生の宝

昭和 59 年度入学 森本信一

今回、部報の原稿を依頼され、書かせていただくことになりました。「書かせていただく」と言っても、現在 OGB 会副会長の麻生さんから LINE でお願いされ、体育科陸上部 1 学年先輩の麻生さんをお願いされたら「否」の選択肢はなく、「快く」引き受けることになったという経緯です。つたない文章になりますが、寛容の心で読んでいただけると助かります。

私が鹿大陸上部に入部したのは昭和 59 年 4 月なので、もうすぐ 41 年が過ぎようとしています。40 年も前のことなので、自分の記憶と実際が異なっており、当時のことを知る方が読まれたら「それは違う」と言われるかもしれませんが、本人がそう思っているということでご容赦願いたいと思います。

入部すると、高校時代やり投げをしていたのでフィールドブロックに所属し、最初の 3 か月は 1 年浪人したブランクを埋めるための基礎体力作りから始まりました。そして諸事情から、翌年の春インカレには 10 種競技で出場することになりました。強いて経験がある種目というと 100m, 1500m, やり投げ, 砲丸投げ, 走り幅跳びの 5 種目で、残り半分の種目は 0 からのスタートでした。特に、棒高跳びは苦戦しました。記録なしにならないように、必死に練習したことを覚えています。必死の練習の甲斐あって、4 年の春のイカレでは、棒高跳びで出場し点数を獲得することができました。

陸上部の運営という点に関しては、3 年生でフィールドブロック長、4 年生で主将を任せていただきました。主将として望んだ春インカレでは、私が入学した昭和 59 年に開学した鹿屋体育大学の 4 年目に当たり、充実した選手層で福岡大学と争えるようになっていました。他の大学の力も向上し、鹿児島大学としては過去に例を見ない結果となり主将として責任を感じたことを覚えています。

先輩・同期・後輩等多くの仲間と切磋琢磨し、よく飲み、よく語りいました。酔っ払ってやらかしたことは数え上げればきりがありません。また、「部長監督問題」という難題に直面するなどいろんなことを学ばせてもらいました。今では良い思い出となっています。

平成元年に卒業し中学校の体育教師として勤め現在に至っています。教員として最終盤にさしかかってきましたが、教員生活において、鹿大陸上部でともに過ごした仲間に助けてもらう場面がたくさんありました。今も、そしてこれからも一生付き合いける仲間を得ることができた得がたい 5 年間に本当に感謝しています。

現役のみなさんが、塗木監督の下練習に励み、すばらしい結果を残していることは OB として大変誇らしく思っています。そして、みなさんにとっても今いる仲間が一生大事に思える仲間となることは、私の経験からも間違いありません。

鹿大陸上部の伝統をみなさんが繋ぎ紡いでくださっていることに感謝するとともに、充実した競技生活や学生生活を過ごされることを祈念し、私自身は、これまでできていなかった鹿大陸上部の活動を少しでもサポートしていこうと決意して、締めくくりたいと思います。一生の宝となる鹿大陸上部をこれからもよろしく願いいたします。

OBGの皆様へのご挨拶

鹿児島大学陸上競技部 部長・監督

塗木 淳夫

日頃より鹿児島大学陸上競技部へのご支援、ご声援を賜り、心より感謝申し上げます。昨年も多くの皆様を支えられ、選手たちは日々成長し、競技に励むことができました。特に、春インカレが鹿児島で開催された際には、多くのOBGの皆様からの温かい応援をいただき、選手たちにとって大きな励みとなりました。おかげさまで、多くの種目で複数の選手が決勝に進出し、自己ベストを更新する選手が続出しました。皆様のご声援が力となり、チーム全体の士気向上にもつながりました。

令和6年度末の現在、本部は短距離・フィールド20名、長距離23名の計43名で構成され、日々競技力向上に励んでおります。特筆すべき成果として、全日本大学駅伝においては2年連続での出場を果たすことができました。これもひとえにOBGの皆様のご支援の賜物であり、深く感謝申し上げます。

また、先日発表された鹿児島県教職員異動を受け、鹿児島大学のOBGの皆様が、多岐にわたる分野で日本社会を牽引するリーダーとして活躍されていることを実感しました。これから卒業する陸上部の学生たちも、大学院や社会に巣立ち、先輩方と同様に日本の未来を担う存在となっていきます。今後何かのご縁がありましたら、ご支援を賜れば幸いです。

私自身、鹿児島大学陸上競技部とのご縁は中学時代に遡り、気がつけば40年を超えました。当時、指導者がいない状況の中、亡母（今年3月逝去）が小学校の保健の先生に相談したところ、現OBG会長の有菌先生をご紹介いただき、その後丸山先生へと繋がりました。また、別當さんや麻生さんをはじめ、多くの短距離・フィールドの先輩方に可愛がっていただきました。そのご縁もあり、現在も変わらず陸上部を支援していただいていることに、改めて感謝申し上げます。

現在、私は鹿児島大学の教員として、陸上競技部の後輩たちをサポートできればと考えております。具体的には、短距離のトレーニング計画の策定や大会でのフィードバックを行い、全選手に対してインカレでのパフォーマンス向上に向けた個別アドバイスを提供し、学生たちが主体的に運営する部活動を支援しています。また、外部トレーナーとの連

携を図り、専門的な視点から選手のコンディショニングやトレーニングの質を向上させる取り組みも行っております。これまで培われてきた良い伝統を大切にしつつも、競技力向上を目指し、学生主体の部運営をサポート・助言する立場として努めてまいります。

しかしながら、少子化に伴う地方国立大学・私立大学の定員減少、運営交付金の大幅削減による人件費削減など、大学運営は今後ますます厳しくなることが予想されます。すでに競技部の存続が難しくなっている大学もあり、実際に他大学では部員数の減少による廃部、施設維持費の負担増、強化費用の削減などが深刻な問題となっています。鹿児島大学も例外ではなく、今後の支援体制を強化しなければ、競技部の運営が厳しくなる可能性があります。こうした状況の中で、競技部としての活動を継続・発展させるためには、科学的なトレーニングの重要性はもちろんのこと、競技に対する強いこだわり（ある意味での根性）や、部への帰属意識・誇りを持つことが極めて重要であると感じています。

「鹿児島大学で最も強い競技部」、「九州の一般総合国立大学で最も強い競技部」、「日本の一般総合国立大学で最も強い競技部」を目指し、部員・スタッフ一同、引き続き全力で取り組んでいく所存です。そのために、専門的なトレーニングメニューの導入、外部トレーナーとの協力強化によるコンディショニングの最適化に取り組んでいます。また、競技環境の改善にも注力し、練習設備の充実や大会出場機会の拡充を進め、選手たちが最大限の力を発揮できる環境を整えていきます。

最後になりましたが、OBGの皆様のみますますのご活躍を心よりお祈り申し上げます。今後とも鹿児島大学陸上競技部への変わらぬご支援・ご声援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。もしお時間がありましたら、ぜひ練習や大会にも足を運んでいただき、後輩たちへのご指導やご助言をいただければ幸いです。また、OBGの皆様との交流の場も設けていきたいと考えておりますので、ぜひご参加いただければと思います。

鹿児島大学陸上競技部 部長・監督

塗木 淳夫

今年度の振り返り

主将 池内謙介

今年度5月より主将を務めさせていただいております。池内謙介です。

はじめにOB・OGの皆様を始め、監督、コーチ、トレーナーの方々には平素より多くのご支援およびご声援を賜り、心より感謝申し上げます。また、昨年度に引き続き今年度も長距離の全日本駅伝出場に際しまして、OB・OGの方々を初めとした皆様方から支援金、クラウドファンディングのご協力を頂き、有難うございます。私たちの活動が滞りなく続けていられるのもこうした関わってくださっている皆様のご支援があつての事だと強く感じております。重ねてお礼申し上げます。

現在、我々陸上競技部の部員数は60名となっております。今年度のスローガンは「凡事徹底」を掲げています。新型コロナウイルスが収束し、OB・OGをはじめとしたたくさんの方々に声をかけていただいたり、新聞やメディアの方にも取り上げていただいたりなど外部とのつながりが徐々に増えてきました。また、新入生もたくさん入部してきましたので、ここで初心に立ち返り、感謝の気持ちを忘れないように、当たり前のことを行うという意味のこもったこのスローガンに決定しました。

昨年度は、新型コロナウイルスによる規制が緩和され、長距離が38年ぶりに全日本駅伝への出場を決めたり、一昨年に引き続き塗木ひかるさん、茅野智裕さんが全日本インカレに出場されたり、末永康貴さんが西日本インカレで入賞されたり、短距離、長距離共に伝統ある陸上部の名に恥じぬ成績を収められた年となりました。今年度は、長距離が二年連続の全日本駅伝への出場、鶴田寛武さんの全日本インカレ出場、別府明稔さんの西日本インカレ入賞、九州駅伝3位入賞、短距離も九州地区のレベルが上がっている中で、インカレ入賞や鹿大歴代10傑の更新を果たすなど、他の国立大学に引けを取らない活躍が出来たのではないかと考えております。

来年度は、東京で世界陸上が開催され、世界のトップ選手が日本に集結します。種目によっては大学生で出場する選手もいます。それだけ日本の大学陸上界もレベルが上がり、トップ争いはより過激化しています。そのような中でもできることを全力で行う、当たり前のことを当たり前に行う「凡事徹底」の信念で来年度も今年度以上に伝統ある陸上部の活動をより活性化させ、競技者として活躍できるよう精進してまいります。

最後になりましたが、今後とも鹿児島大学陸上競技部へのご支援、ご声援ならびにご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い致します

令和6年度を振り返って

主務 出水田 怜緒

令和6年度主務を務めさせていただいております、出水田怜緒と申します。

今年度も塗木監督をはじめ、コーチやトレーナーの方々、OBGの皆様から多くのご支援やご協力を賜り鹿児島大学陸上競技部の活動を行うことができました。この場をお借りして心より感謝申し上げます。

まず、今年度は多くの新入生が入部し、鹿児島大学内で最も規模の大きな部活動になりました。短距離・長距離・フィールド種目の全ての競技に各専門の部員が在籍しております。私自身、長距離種目を専門としており、下級生の頃は他の種目には目を向けずといったところでした。他の種目の選手とはコミュニケーションもままならないでいました。しかし、今年度から主務を務めさせていただく上で、長距離だけでなくもっと大きく陸上競技部全体に目を向けるようになりました。そうすると、各部員が各専門種目で自分で考えて空いた時間を見つけて、各パートごとで競技について議論していたりと、今まで見ていなかったものが見えてきました。他の大学の陸上競技部を見ると、全ての種目に専門の選手がいないということが大きな大学を除いてほとんどでした。たくさん部員がいて、様々な種目にそれぞれが頑張ることができる環境、競技場に行けば多くの部員がいて活気のある部活、そしてそこから自分も頑張ろうという刺激をもらえること、たくさんことに気づくことができました。普段練習して様々な種目の選手とコミュニケーションをとり、刺激をもらえることの幸せを主務になって実感しました。私はこの陸上競技部の部員全員がそれぞれの目標に向かって努力しているのを1年間かけて見てきました。

今年度は長距離の2年連続全日本大学駅伝出場をはじめ各パートで決勝に残ったり入賞などで、鹿児島大学陸上競技部の名前が全国に広まりました。来年度は今年度以上に新入生が入部してさらに大きな部活動となるでしょう。部員が増えるということはチーム内競争も激しくなります。私たちは国立大学です。毎年多くの部員が入部するとは限りません。だからこそ一人一人を大切に、チーム全員で強い鹿児島大学陸上競技部を作っていきます。

「手を抜いているヤツなんていない」と断言できる陸上競技部です。

最後になりますが、来年度も鹿児島大学陸上競技部部員全員で精進して参ります。監督・コーチ・OBGの皆様のご支援・ご協力に感謝申し上げますとともに、今後も引き続き鹿児島大学陸上競技部への熱いご声援をよろしくお願いいたします。

令和6年度を振り返って

副主務 松崎太郎

令和6年度より副主務を務めさせていただいております、松崎太郎と申します。はじめに昨年に引き続きOBGの皆様からの多大なるご支援、ご餞別のほど誠にありがとうございます。今年度も全日本インカレや全日本大学駅伝への出場といった華々しい成績を収めることができました。これもひとえに日ごろからご支援・ご協力をいただいております監督、コーチ、OBGの皆様、その他関係者の皆様のおかげであります。

今年度を振り返ってみて感じることはチームとしての団結力がより一層高まった1年であったということです。今年は例年と比較して多くの新入生の加入に伴い総勢60名ほどの集団となったことからチームとしての組織力や団結力が求められていました。そのため今年は短・長ブロックそれぞれが合宿の機会を盛んに取り入れることでチームとしての輪をより一層高めることに努めました。その結果、短距離ブロックに置かれましては秋インカレのマイルリレーにおいて昨年の先輩方の記録を上回る成果を挙げての入賞を果たしました。また長距離ブロックに置かれましても全日本大学駅伝、島原学生駅伝において昨年の記録を大きく上回る躍進を遂げました。これもチームとしての団結力が高まった印の表れだと感じております。来年も引き続き更なる競技力の向上を目指してチーム一同、励んで参ります。

最後に私ごととなりますがこの一年、競技力はもちろんのこと人間性に関しましても大きく成長させられた年であったと感じております。副主務という立場は口座の管理のみならず大会や合宿等の幹旋、収支報告や申請書類の作成、トラブル等の対処などその業務は多岐にわたります。任命当初はきちんとこなすことができるか不安ではありましたがチームの支えもあり無事に職務を全うすることができたと感じております。今後は下の学年へとチームのバトンは引き継がれていくこととなりますが監督、コーチ、そしてOBGの皆様のお力添えをお願いしつつ歴代の先輩方が築き上げてくださった陸上競技部としての伝統や誇りを大切にしていける所存であります。また私の陸上競技部としての時間はあと僅かではございますが引退まで悔いのないよう全力で競技に取り組んで参ります。

最後になりますが今後とも鹿児島大学陸上競技部への変わらぬご支援・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

令和6年度を振り返って

短距離ブロック長 原口大生

今年度短距離ブロック長を務めさせていただいております原口大生です。今年度も塗木監督・内田コーチをはじめ、OBGの皆様から多くの御支援や御協力を賜り鹿児島大学陸上競技部の活動を行うことができました。この場をお借りして心より感謝申し上げます。

さて、2024年度の鹿児島大学陸上競技部短距離ブロックにおきましては5月の九州学生対校陸上選手権、7月の第79回鹿児島県陸上競技選手権大会、9月の第52回九州学生陸上競技選手権大会、10月の第8回九州学生新人選手権大会といった様々な主要な大会に出場することができました。真夏の猛暑や夜間の練習などの苦しみにも耐え、コロナ禍で失われた合宿を取り戻し、この1年間は陸上競技に集中して取り組むことができました。また、多くの方々の支援を賜り、活動を続けることができました。全体の結果として、多くの選手が自己ベストや大学ベストを更新し、九州陸上競技選手権大会に出場する選手も輩出することができました。これらの成果は、選手自身のひたむきな努力と、さまざまな協力があったからこそ成し得た結果であると実感しています。

一方で、自己ベスト更新を達成できなかった選手や、結果が振るわない大会もありました。個人としても怪我の多いシーズンとなり、思い悩む時期もありました。リレー種目においては、鹿児島大学陸上競技部の威厳を見せることができず、悔しい思いを残しました。また、短距離ブロック長としてチーム作りに向き合う日々も続きました。

陸上競技を行う上で、競技力だけではなく、愛され、応援される人こそ一流のアスリートであり、チーム全員が目標をそろえ、同じ方向を向くことこそが一流のチームであると考えています。この考えのもと、部員全員から部活動における行動目標を聞き、それをすり合わせ、凡事徹底を土台とした統一した目標を掲げました。集中すべきときに集中できるよう、練習中の声掛けなども行いました。ある程度の規律は整いましたが、凡事徹底の浸透には時間がかかり、まだ定着していないのが現状です。「四継・マイルともに全日本インカレ出場という目標を、何年かかっても良いので、自分の代から鼓舞させたい」と、先代短距離ブロック長の福元さんに熱く語ったことを思い出しながら、これらの結果を真摯に受け止め、2025年度は鹿児島大学陸上競技部のさらなる飛躍と成長を目指します。個人の大幅な自己ベスト更新、四継・マイルリレーでの決勝進出・入賞のために、一流のチームとなって陸上競技に取り組んで参ります。最上学年である4年生として、また短距離ブロック長として、チームを引っ張る立場で陸上競技部に携わります。次に引き継ぐ後輩たちを見守りつつ、現状を把握しながら、チームの成長に貢献していきます。2025年度は気持ちを新たに、チームを引っ張る立場として誰よりもがむしゃらに陸上競技に取り組み、個人の背中やコミュニケーションを通じてチームを牽引していけるよう努めてまいります。

最後に改めてこれまでの監督、コーチ、OBGの皆様の御支援・ご協力に感謝申し上げますとともに、今後も引き続き鹿児島大学陸上競技部の応援の程よろしく願いいたします。

令和6年度を振り返って

長距離ブロック長 梅橋拓也

本年度、長距離ブロック長を務めさせていただいております梅橋拓也です。本年度もOBGの皆様をはじめ、監督、コーチ、トレーナーの方々から多大なるご指導やご支援を賜り、活動できていることを心より感謝申し上げます。

今年度も昨年に引き続き、チームとして非常に大きな経験をさせていただきました。6月に行われた秩父宮賜杯第56回全日本大学駅伝対校選手権大会九州地区選考会において、鹿児島大学陸上競技部長距離ブロックが優勝し、2年連続となる全日本大学駅伝への出場を果たしました。3月、精神的にも競技力的にもチームの主力であった先輩方が卒業され、チームの雰囲気は全く新しいものとなりました。もちろん不安はありましたが、それ以上に大きな期待もありました。というのも、ミーティングの工夫やその他諸々の取り組みにより、チームのコミュニケーションが活発化していたからです。我々のチームの強みは何といても「チームワーク」です。さて、この全日本大学駅伝出場に当たり、今年度もクラウドファンディングも実行させていただきました。その際、OBGの方々からも多大なるご支援を賜り、改めてたくさんのご支援があって出場出来ることを再確認した次第でした。出場が決まってからは、これまでよりも更にレベルアップを図り、チーム一丸となって夏場の練習に取り組んで参りました。たくさんOBGの方々の応援メッセージや現地まで来ていただいた方、テレビの前で応援してくださった方々、数え切れないほどの応援をいただきました。誠にありがとうございました。実際に出場して、鹿児島大学らしい想いを繋ぐ駅伝は出来たものの、関東のチームの壁の高さを実感すると共に来年度も出場して、もう一度感動の瞬間を味わいたいと強く思いました。「強い鹿大」を維持するのは容易なことではありませんが、今の「強い鹿大」が一過性のものにならないように、ノウハウを着実に後輩たちに伝えていかなければならないなと思うところです。全日本大学駅伝が終わった後は島原駅伝が開催され、チームとしても初優勝を目指して臨みましたが、結果は3位という結果でした。全日本大学駅伝に出場出来たこともあり、出雲駅伝の出場権も獲得したいと意気込んでおりましたが、叶いませんでした。陸上競技の難しさを改めて実感しました。

現在は来るトラックシーズンに向けて、各々の選手がそれぞれの種目に合わせて日々トレーニングに励んでいます。来年度のチームの目標と致しましては、「全日本大学駅伝予選会3連覇」「島原駅伝優勝」を掲げさせていただきます。

最後になりましたが、今後とも鹿児島大学陸上競技部へのご指導・ご鞭撻の程、何卒宜しくお願い致します。

今年度を振り返って

フィールドブロック長 八木香澄

フィールドブロック長を務めさせていただいております、八木香澄です。はじめに陸上競技部が日々活動できているのも監督やコーチ、トレーナー、OBGの皆様などのご支援のおかげであることを実感しております。感謝申し上げます。

今シーズンを振り返ってみますと、春インカレでの広川の走高跳2位という結果がありました。しかし、春インカレ後ブロック長を交代してから、大会での入賞や自己ベストの更新をする部員が少なく、私の力不足を感じています。この結果を真摯に受け止め、日々の練習に努めてまいります。

また、投擲パートには3人の1年生が入部しました。1年生の木戸が投擲パート長となり、木戸を中心に活気ある練習を行っています。1年生で自己ベストを更新した部員もおり、新たな生活で慣れない中、自分たちで考えながら練習することができています。投擲パートが復活したことで、フィールドブロックの雰囲気も変わりました。種目は違いますが、お互いを刺激し合いながら、良い雰囲気練習をすることができていると思います。

今後の課題としては、跳躍・パートともに、基礎体力・走力の向上です。これらは記録を更新するためには、欠かせないものです。体幹が弱い部員も多く、体幹トレーニングやウエイトトレーニングといった補強系のトレーニングが不足していることが推測されます。これまで以上に、補強系のトレーニングに力を入れ、課題を解決していきたいと思っています。

そして、今年度からは麻生先生や市来さんにもご指導いただいております。ご指導いただいたおかげで、専門種目の技術力の向上を感じております。自分自身では気付くことができなかった新たな発見もあり、自分の種目について考え直すきっかけにもなっています。ご指導いただいたことを活かし、自分自身の成長に繋げていきたいと考えております。

今後の目標としては、九州インカレでの入賞、自己ベストの更新です。目標を達成するためには、一人一人が自分自身の課題を明確にし、課題解決に向けて、練習をしていくことが重要となります。部員一人一人とコミュニケーションを取ることで、それぞれが自分の種目と向き合うことができるようにしていきたいと思っています。

最後になりましたが、来シーズンのインカレで一人でも多くの自己ベストの更新、大会での入賞者が出るように、精進して参りますので、これからも変わらぬご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

令和5年度
鹿児島大学陸上競技部OBG会
決算報告

《収入》

項目	金額	備考
前年度繰越金	¥534,630	
OBG会会費	¥585,000	令和5年度納入分(85名)
雑入	¥4	受取利子
計	¥1,119,634	

《支出》

項目	金額	備考
学生補助	¥372,000	陸上競技部活動補助費、OBG總會学生補助
通信費	¥40,572	ハガキ代・郵送代
会議費	¥53,674	全日本大学駅伝選考会慰労会・監査他
雑費	¥5,712	ネームプレート・コピー用紙代
事務費	¥10,000	陸上競技部活動補助費管理事務費
手数料	¥110	郵便局手数料
慶弔費	¥16,500	前村先生供花代
計	¥498,568	

収入合計 ¥1,119,634
支出合計 ¥498,568
差引合計 ¥621,066

※ 令和6年度へ繰越し

以上ご報告いたします。

鹿児島大学陸上競技部OBG会

会計 川路 龍世



秩父宮賜杯第 56 回全日本大学駅伝対校選手権大会九州地区選考会

令和 6 年 6 月 2 日 (日)

福岡大学陸上競技場

記録

種目	氏名	結果	備考
10000m	藤本 悠太郎 (3)	30'48"94	鹿大歴代 9 位
	鶴田 寛武 (4)	30'52"16	
	別府 明稔 (4)	31:05"72	
	弓削 佑太 (M2)	31'23"39	
	梅橋 拓也 (3)	31'40"72	
	平野 皓大 (4)	31'52"76	
	清藤 悠里 (2)	31'53"49	
	脇園 大貴 (4)	32'31"01	

鹿児島大学 第 1 位 4 時間 12 分 08 秒

第 77 回 西日本学生陸上対校選手権大会

令和 6 年 7 月 5 日 (金) ~7 日 (日)

博多の森陸上競技場

男子

種目	氏名	記録	順位	備考
10000m	別府 明稔 (4)	31'19"39	3 位	
3000mSC	藤本 悠太郎 (3)	9'15"78	6 位	鹿大歴代 6 位

第 79 回鹿児島県陸上競技選手権大会

令和 6 年 7 月 5 日（金）～7 日（日）

白波スタジアム

男子

種目	氏名	予選	決勝	順位	備考
100m	原口 大生 (3)	11"03(+2.4)			
400m	宮地 吾宗 (4)	50"13	49"05	5 位	
	有上 漣 (1)	DNS			
	臣 遼太郎 (1)	50"78			
800m	脇園 大貴 (4)	1'59"78			
	肝付 浩太郎 (1)	2'06"51			
400mH	上田 紘弥 (M1)	DNS			
	宮地 吾宗 (4)	55"20	DNS		自己ベスト
	宏州 真心 (2)	58"51			
	増丸 寛太 (1)	DNS			
1500m	鶴田 寛武 (4)	3'54"69		2 位	鹿大歴代 2 位
5000m	鶴田 寛武 (4)	15'08"90		3 位	
10000m	弓削 佑太 (M2)	33'37"51			
	平野 皓大 (4)	32'52"17			
	梅橋 拓也 (3)	32'23"94		6 位	
	清藤 悠里 (2)	31'53"32		5 位	
砲丸投	小宮 圭翔 (1)	11m20		3 位	
4×100mR	1. 尾方香心 (2)	42"17	42"80	7 位	
	2. 原口大生 (3)				
	3. 池内謙介 (3)				
	4. 原田耕作 (3)				

4×400mR	1. 臣遼太郎 (1)	3'26"48			
	2. 池内謙介 (3)				
	3. 原田耕作 (3)				
	4. 北村健太 (1)				
	1. 宮地吾宗 (4)		3'18"37	4位	
	2. 池内謙介 (3)				
	3. 臣遼太郎 (1)				
	4. 原田耕作 (3)				

女子

種目	氏名	予選	決勝	順位	備考
100m	塗木 ひかる (M2)	12"35(+1.2)	12"54(-1.1)	2位	
	鶴田 千花 (1)	13"29(+1.9)			
200m	塗木 ひかる (M2)	25"81(-0.7)	25"27(+1.9)	2位	
400m	坂元 莉歩 (4)	1'01"91	1'00"63	7位	自己ベスト
走高跳	広川 采矢子 (2)	1m60		5位	
棒高跳	新名主 葵子 (2)	2m41		6位	
4×100mR	1. 鶴田千花 (1)	49"83	49"14	4位	
	2. 塗木ひかる (M2)				
	3. 塗木さくら (M1)				
	4. 竹元千咲 (4)				
4×400mR	1. 塗木さくら (M1)	4'09"39		4位	
	2. 塗木ひかる (M2)				
	3. 竹元千咲 (2)				
	4. 坂元莉歩 (4)				

第 79 回九州陸上競技選手権大会

令和 6 年 8 月 23 日 (金) ~ 25 日 (日)

タピック県総ひやごんスタジアム

女子

種目	氏名	予選	決勝	順位	備考
女子 100m	塗木 ひかる (M2)	12"43(+1.3)			
女子 200m	塗木 ひかる (M2)	26"45(-1.3)			
女子 4×100mR	1. 鶴田 千花 (1) 2. 塗木 ひかる (M2) 3. 塗木 さくら (M1) 4. 竹元 千咲 (2)	50"13			

天皇賜盃 第 93 回日本学生陸上競技対校選手権大会

令和 6 年 9 月 19 日 (木) ~ 22 日 (日)

Uvance とどろきスタジアム

種目	氏名	決勝	順位	備考
10000m	鶴田 寛武 (4)	31 分 15 秒 89	18 位	

第56回全日本大学駅伝対校選手権大会

令和6年11月3日(日)

熱田神宮西門 発

伊勢神宮内宮宇治橋 着

記録

	氏名	結果	備考
第1区(9.5km)	藤本 悠太郎(3)	28分59秒	区間23位
第2区(11.1km)	鶴田 寛武(4)	34分42秒	区間22位
第3区(11.5km)	弓削 佑太(M2)	37分43秒	区間26位
第4区(11.8km)	平野 皓大(4)	37分16秒	区間25位
第5区(12.4km)	水口 渉(3)	39分40秒	区間22位
第6区(12.8km)	梅橋 拓也(3)	41分03秒	区間25位
第7区(17.6km)	清藤 悠里(2)	54分40秒	区間19位
第8区(19.7km)	別府 明稔(4)	1時間03分21秒	区間20位

第21位 鹿児島大学 記録:5時間37分24秒

第 42 回九州学生駅伝対校選手権大会

令和 6 年 1 2 月 7 日 (土)
(島原市宮陸上競技場～島原文化会館)

記録

	氏名	結果	備考
1 区(7.74km)	藤本 悠太郎 (3)	24 分 48 秒	区間 4 位
2 区(8.39km)	弓削 佑太 (M2)	25 分 20 秒	区間 8 位
3 区(8.27km)	鶴田 寛武 (4)	24 分 51 秒	区間 2 位
4 区(9.38km)	清藤 悠里 (2)	35 分 19 秒	区間 3 位
5 区(9.08km)	別府 明稔 (4)	30 分 12 秒	区間 6 位
6 区(7.24km)	脇園 大貴 (4)	20 分 26 秒	区間 1 位
7 区(7.71km)	水口 渉 (3)	23 分 56 秒	区間 4 位

第 3 位 鹿児島大学 記録：3 時間 04 分 52 秒

R6 年度 部員名簿

短距離

学年	名前	出身	所属学部	自己ベスト
M2	福留 勘太	甲南/鹿児島	工/海土	400m / 49"12 800m / 1'52"41
M2	塗木 ひかる	甲南/鹿児島	医歯/医科学	100m / 11"90 200m / 24"78
M1	上田 紘弥	修猷館/福岡	水産/水産	400m / 50"92 400mH / 54"34
M1	末永 康貴	鹿児島/鹿児島	工/情報生体	110mH / 14"87 400mH / 52"63
M1	檜垣 健介	小樽潮陵/北海道	水産/水産	
M1	塗木 さくら	鹿児島女子/鹿児島	法文/人文	100m / 12"68 200m / 26"82
4	鳥越 璃音	加治木 / 鹿児島	工/機械工	400m / 50"86 800m / 1'58"20
4	牧 翔太	戸畑 / 福岡	法文/法	100m / 11"23 110mH / 14"76
4	宮地 吾宗	鳳凰 / 鹿児島	教育/保体	400m / 49"05 400mH / 55"20
4	坂元 莉歩	川内 / 鹿児島	教育/保体	200m / 27"48 300m / 44"49 400m / 1'00"63
3	池内 謙介	諫早/長崎	工/情報生体	100m / 11"09 400m / 50"73
3	原口 大生	甲南/鹿児島	工/機械工	100m / 11"02 200m / 22"61
3	原田 耕作	武岡台/鹿児島	農/農林環境	100m / 11"18 200m / 22"68
3	吉留 皓平	鹿児島南 / 鹿児島	工/海洋土木	100m / 11"37
2	尾方 香心	人吉/熊本	水産/水産	100m / 11"39
2	宏洲 真心	鹿児島中央 / 鹿児島	教育 / 技術	400mH / 58"51
2	山上 遥	甲南/鹿児島	法文/人文	マネージャー

2	野添 真生	純心女子/鹿児島	水産/水産	マネージャー
1	有上 漣	鹿児島玉龍/鹿児島	法文/法経社会	100m / 11"09 400m / 51"27
1	臣 遼太郎	関西大倉/大阪	理/地球物理	200m / 22"69 400m / 50"78
1	北村 健太	学園大附属 / 熊本	教育 / 保体	400m / 52"90
1	肝付 浩太郎	鹿児島中央/鹿児島	教育 / 数学	800m / 2'01"84
1	橋本 和磨	広大附属 / 広島	医/医	100m / 11"36 200m / 23"69
1	増丸 寛大	西陵 / 長崎	教育 / 保体	400mH / 58"65
1	鶴田 千花	武岡台/鹿児島	教育 / 特支	100m / 13"10

長距離

M2	弓削 佑太	鹿児島南 / 鹿児島 島	教育 / 実践	1500m / 3'55"23 5000m/14'36"53
M1	前田 和輝	宮崎南 / 宮崎	工 / 建築	5000m/16'07"02
4	鶴田 寛武	鹿児島中央 / 鹿児島 島	工 / 化学工学	1500m / 3'54"42 5000m/14'26"79 10000m/30'52"16
4	平野 皓大	筑前 / 福岡	法文/法経社会	5000m / 15'11"03
4	別府 明稔	川棚 / 鹿児島	法文 / 人文	5000m / 14'41"00 10000m/30'52"00
4	脇園 大貴	川内 / 鹿児島	医 / 保健	800m / 2'06"25 1500m / 4'12"90
3	藤本 悠太郎	宮崎西 / 宮崎	医 / 医	1500m / 3'57"33 5000m / 14'23"72 10000m/30'44"16
3	出水田 怜緒	鹿屋 / 鹿児島	教育 / 社会	5000m / 15'02"43 10000m/32'07"00
3	梅橋 拓也	鳳凰 / 鹿児島	工 / 機械工	5000m / 14'42"70 10000m/31'00"24

3	松崎 太郎	鹿児島中央 / 鹿児島	工 / 建築	5000m / 15'25"72 10000m/32'23
3	水口 涉	岩国 / 山口	水産 / 水産	5000m / 15'05"20 10000m/32'06"65
2	川坂 湧嗣	筑前 / 福岡	工 / 電気電子	5000m / 15'38"36 10000m/32'17
2	清藤 悠里	鹿児島南 / 鹿児島	教育 / 英語	5000m / 15'13"67 10000m/31'48"09
2	内藤 十	岡山一宮 / 岡山	農 / 農業生産	800m / 2'02"99 1500m / 4'17"89 3000m / 9'27"53 5000m / 15'40"54
2	水谷 太	前橋 / 群馬	水産 / 水産	5000/16"55 10000/34"45
1	中村 斗軌	有馬 / 兵庫	水産 / 水産	5000m/15'40"96 10000m/33'18"53 10km/32'33
1	前濱 快	長崎東 / 長崎	法文 / 法経社会	5000m/15'27"67 10km/32'31
1	安永 圭太	鹿児島南 / 鹿児島	法文 / 法経社会	5000m/15'45"89 10km/32'43
1	山下 凌和	日向学院 / 宮崎	法文 / 法経社会	5000/16'51 10 km/35'35
1	豊留 叶夢	指宿商業/鹿児島	法文 / 法経社会	5000/16'19 10 km/32'53
1	後藤 鞠奈	山口 / 山口	共同獣医	1500/4'48 3000/10'15
1	山口 実来	佐世保西 / 長崎	教育 / 音楽	マネージャー
1	東村 桜咲子	鹿児島 / 鹿児島	教育 / 家政	マネージャー

フィールド

4	小夏 和馬	熊本国府 / 熊本	教育 / 保体	走高跳 / 1m88 三段跳 / 13m77
4	岩本 禎子	天草 / 熊本	法文 / 人文	走幅跳 / 5m10
3	八木 香澄	熊本信愛女 / 熊本	教育 / 特支	走幅跳 / 5m11 三段跳 / 11m50
2	宮里 朝大	与勝 / 沖縄	水産 / 水産	走高跳 / 1m85
2	新名主 葵子	甲南 / 鹿児島	教育 / 英語	棒高跳 / 2m60
2	竹元 千咲	鹿児島中央 / 鹿児島	教育 / 保体	走幅跳 / 5m03
2	広川 采矢子	甲南 / 鹿児島	医 / 保健	走高跳 / 1m66
1	川畑 瑛希	鹿児島玉龍 / 鹿児島	工 / 情報生体	走幅跳 / 6m75
1	木戸 厚誠	舞子 / 兵庫	工 / 機械工	やり投 / 52m05
1	小宮 圭翔	伝習館 / 福岡	農 / 農	砲丸投 / 11m71 円盤投 / 28m99
1	長谷川 博史	旭川東 / 北海道	工 / 建築	やり投 / 45m63

編集後記

今回も皆様のご協力により、令和 6 年度の部報を無事完成させることができました。部報作成に当たり、ご多忙の中、原稿を寄せていただいた監督・OBGの方々や編集作業にご協力いただいた皆様に紙面を借りてお礼申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。

本年度は、新型コロナウイルスによる制限がなく、普段の練習を精一杯行うことができ、多くの試合に参加することのできた一年でした。また、今年度は昨年度に引き続き、長距離ブロックが2年連続で全日本大学駅伝に出場し、国立大学一位という誇り高い結果を残してくれました。これは皆様の度重なる温かい支援があってこそその結果であると感じております。クラウドファンディング並びに、支援金にご協力いただき、ありがとうございました。

今年度の短距離ブロックは、夏と冬の二回、ジャパンアスリートトレーニングセンター大隅で合宿の機会を設けました。この合宿でより一層、走りの向上はもちろんのこと、チーム力も向上し、来年度へ向けて一致団結できたと思っております。

来年度は、さらに良い結果をご報告できるよう、日頃から感謝を忘れず、部員一同練習に励んでいきます。

今年一年、多くの試合に部員一同参加しております。そちらの結果は、鹿児島大学陸上競技部のHPに掲載しております。並びに、XやInstagram等のSNSもございますので、ぜひそちらもご覧ください。

最後になりましたが、この度大学を卒業されます方々やOBG会の皆様、そして鹿児島大学陸上競技部の今後の活躍と発展を祈念して編集後記とさせていただきます。

編集者一同